

令和6年度
まちづくり懇談会
実施報告

企画政策課 広報広聴係

令和6年度まちづくり懇談会

実施期間 : 令和6年7月3日(水)から7月17日(水)まで

実施回数 : 4回

延参加人数 : 79名

※参考(R5) : 59名

意見・提案数 : 57件

開催期日・会場

開催期日	会場	意見等 (件)	一般 (人)	議員 (人)	職員 (人)
7月3日(水)	伊王野基幹集落センター	7	10	11	9
7月9日(火)	芦野基幹集落センター	7	23	11	7
7月10日(水)	高原公民館	15	16	9	6
7月17日(水)	ゆめプラザ・那須	28	30	11	29
計		57	79	42	51

期日	会場	意見・提案等	備考
7/3	伊王野基幹 集落センター	1 防犯カメラ設置について・・・P4 2 歴史あるまちづくりについて・・・P5 3 地域内の若者を集めた懇談会への助成 について・・・P6 4 小学校中学校の部活動への助成金について・P7 5 伊王野の河島医院について・・・P8 6 墓地や土地の所在等に関する相談先 について・・・P9 7 農業用水路の破損、懇談会の費用対効果 について・・・P9	
7/9	芦野基幹集落 センター	1 芦野山村広場旧テニスコートの老朽化したフェンスの 撤去について・・・P11 2 部活動タクシーについて・・・P11 3 企業誘致について・・・P13 4 空き家について・・・P14 5 消防水利について・・・P14 6 消防団員の確保について・・・P15 7 消滅可能性自治体について・・・P16	
7/10	高原公民館	1 那須町長として、那須町の強みと弱みにつき 見解を！・・・P17 2 那須町の未来戦略について・・・P18 3 企画やイベント等の宣伝について・・・P18 4 那須町の観光について・・・P18 5 観光税について・・・P19 6 観光行政について・・・P19 7 那須町の住居と就労場所拡充について・・・P20 8 地域おこし協力隊の活動や成果、効果測定 の公表について・・・P21 9 廃屋や廃墟、廃店舗への取り組みについて・P22 10 知的好奇心をくすぐるようなイベントに 関して・・・P22 11 ゴミのポイ捨てについて・・・P23 12 高齢者の生活について・・・P23 13 クリニックの設置について・・・P24 14 那須町の人口推移について・・・P24 15 友愛の森について・・・P25	

7/17	ゆめプラザ・那須	<p>1 消火栓のメンテナンスまたは廃止促進 について・・・・・・・・・・P26</p> <p>2 自治会退会者が多くなっていること について・・・・・・・・・・P26</p> <p>3 月2回の広報紙等の配布について・・・・・・P26</p> <p>4 若い移住者が増えるようなまちづくり について・・・・・・・・・・P27</p> <p>5 若者の定住促進について・・・・・・・・・・P27</p> <p>6 空き家、危険性がある建造物について・・・P27</p> <p>7 町営の日帰り温泉の建設について・・・・・・P28</p> <p>8 みんなの店の存続と在り方について・・・・・・P28</p> <p>9 学校部活動の地域移行について・・・・・・P28</p> <p>10 部活動地域移行検討よりジュニア音楽部 の設立について・・・・・・・・・・P29</p> <p>11 音楽鑑賞教室の開催について・・・・・・・・・・P30</p> <p>12 水遊びができる公園について・・・・・・・・・・P30</p> <p>13 「生きがいづくり」ができる町について・P30</p> <p>14 道標の身分保証について・・・・・・・・・・P31</p> <p>15 県道211号線の安全確保について・・・・・・P32</p> <p>16 黒田原を通過する県道豊原高久線の 交通安全確保について・・・・・・・・・・P32</p> <p>17 旧母子センター前十字路について・・・・・・P32</p> <p>18 生活しやすい町としてのPRについて・・P33</p> <p>19 イベントについて・・・・・・・・・・P33</p> <p>20 住みよいまちづくりについて・・・・・・・・・・P33</p> <p>21 北那須エリアでの自治体同士の連携に ついて・・・・・・・・・・P34</p> <p>22 マウントジーンズ跡地について・・・・・・・・・・P34</p> <p>23 意見・提案・・・・・・・・・・P35</p> <p>24 町長の政治倫理観を知りたい・・・・・・・・・・P36</p> <p>25 シェルターへの補助金について・・・・・・・・・・P37</p> <p>26 災害時避難場所の変更について・・・・・・P37</p> <p>27 黒田原駅前アーケードの設置、友愛の森 について・・・・・・・・・・P37</p> <p>28 まちづくり懇談会について・・・・・・・・・・P38</p>	
------	----------	--	--

7月3日（水）伊王野基幹集落センター

1 防犯カメラ設置について	(総務課)
<p>(質問者) 昨年、自治会長宛てに防犯カメラ設置関連のアンケートがあったと聞いておりますが、その時の自治会長によって温度差があるため設置に向けて具体的な方向性はまだとの事です。先日、大和須での死体遺棄事件で重要な手がかりになったのが、防犯カメラの映像でした。防犯カメラの重要性がより高まる事件だと思います。身近に起こり得る事件や事故の事を考えると早急に防犯カメラの設置が必要になっているかと思われま</p>	
<p>(町長) 犯罪の防止につきましては、防犯カメラも一定の効果があると考えます。那須町は現在、役場前、黒田原駅前、中央運動公園、ゆめプラザ・那須、文化センターおよびスポーツセンターに防犯カメラを設置するとともに、プライバシー保護を目的に「防犯カメラの設置及び運用に関するガイドライン」を策定しております。町の設置および運用には限度がございますので、今後も警察を中心とした防犯活動について、町とともに地域でのご協力をお願いしたいと考えております。特に今回の死体遺棄事件は毎日のように報道されました。自然が多い良さと、逆にそこに犯罪が隠れているということもあります。警察と意見交換をしながら、皆さんにもいち早く危険性のあるものに関しては安心安全メールでも発信しているところです。これも含めながらより安全に進めていく考えでございますので、ご理解をいただきたいと思</p>	
<p>(質問者) 先日の那須町で起きた事件解決の決め手が防犯カメラでした。ただ、それは個人が所有していた防犯カメラでした。坂本から蓑沢・白河方面と伊王野方面の分岐点などに防犯カメラを設置することによって、事件や高齢者の徘徊、ゴミの不法投棄などの問題解決にもつながるのではと思います。しかし、どれだけ費用がかかるのか、また町がどの程度負担してくれるのか。防犯カメラを設置するにあたって金額や種類など、具体的な提案をいただきたいです。</p>	
<p>(町長) 防犯カメラの取り付け場所については警察と相談しています。今は公共施設にしか取り付けしていないのが現状です。行政が防犯カメラを設置するには、運用に関するガイドラインがあり、プライバシー保護の問題もあります。町でも、できる限り防犯カメラを付けたいとは思いますが、プライバシーの問題や場所の問題があり設置が厳しいのが現状です。</p>	
<p>(総務課長) 昨年、各自治会に防犯カメラについてアンケートを取りました。結果、必要との回答は全体の3割未満でした。自治会として、補助金があっても導入は難しいとのことかと思</p>	

させていただきます。また、防犯カメラの値段もさまざまですので、性能などをよく調べる必要があると考えています。

(質問者) 那須町だけでなく他自治体の活用の仕方を情報収集して、那須町に合った活用をしていただければと思います。

(町長) 以前、行方不明の方の捜索で、防犯カメラの映像を元に聞き取りをし解決したことがあります。これからの時代には犯罪防止や、今は熊や猪が出ており、危険防止につながると思いますので、行政としても検討したいと思います。

2 歴史あるまちづくりについて

(生涯学習課)

(質問者) 町では、芦野・伊王野地区を歴史ある町づくりとしていますが、今後どのような事業を具体的に進めていくのかお聞きします。

(町長) 町では、これまで歴史探訪館において、伊王野・芦野地区にゆかりのある偉人のパネル展示を実施したり、公民館と連携し、伊王野城、芦野城ウォークを行ったりなど、伊王野・芦野地区の歴史を中心にさまざまな企画を行ってまいりました。今後はこれらの取り組みを継続するとともに、地域内外に向けた発信を強化してまいりたいと考えております。

また、遺跡分布調査を実施する計画でおり、歴史、文化資源が数多く点在する伊王野・芦野地区から着手したいと考えております。本調査は山林や田畑等の民地を調査員が踏査することになりますので、地域住民の皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。本調査の実施後、埋蔵文化財包蔵地の地図を整備することはもとより、採取された遺物等を調査・分析し、将来的には展示を行うなど、観光や教育等さまざまな分野での活用を検討してまいります。

また、今年9月8日には、道の駅東山道伊王野において、那須地区郷土芸能フェスティバルが開催予定となっております。是非ご覧いただければと思います。

(質問者) 昨年もこの場所で同じ質問をしました。聖徳太子の時代から東山道という由緒ある街道が伊王野を通っています。他の自治体では、すでに発掘を進めているのに、那須町はまだ動いていませんでしたが、今年、少しずつ動いてきていると思います。いつから始められるのかを教えてください。

(生涯学習課長) 令和6年度から令和9年度までの4年間で町全体を調査しますが、那須町には東山道に関する資料があまり存在していないこともあり、今回の調査には含まれていません。今後、どの様に調査を進めたらいいか、知見のある方の意見をもらって検討していければと思います。

(質問者) 学術的な調査との事で、研究されている宇都宮大学の先生がいらっしゃるの
で、ぜひそういった方々からご意見をいただきながら、進めていただければと思います。

(町長) 大田原市で携わっている木村先生等から助言をいただきながら進めたいと思っ
ております。歴史に関しては、深堀をしていかなければならない地域ですので、少しでもス
ピード感を持って進めたいと考えておりますので、ご理解をいただければと思います。

3 地域内の若者を集めた懇談会への助成について (企画政策課)

(質問者) 地区内にいる若い人たちを集めて懇談会を開催して今後の地区内をどうすべき
か、ざっくばらんに意見交換と懇親を深めるための経費を支出できることを望みます。

(町長) 町では、協働のまちづくり推進規則により、地区社会福祉協議会単位として、地
域づくり委員会を設置し、地域の課題解決に向けて討議し、町民と行政の相互理解による
協働のまちづくりを推進することとしております。現在、休止や解散をしている委員会も
ございますが、委員会の開催等運営に必要な費用について年額5万円を上限として交付を
しております。

現在のところ、個別の地区懇談会等に対し新たな助成制度を設ける予定はございません
が、地域づくり委員会の運営交付金として経費を支給することはできますので、企画政策
課総合政策係までご相談いただければと思います。若い世代の方々の意見を集められる場
は必要と思っておりますので、規約だけでなく対応できる方法を考えていきたいと思っ
ております。今の段階ではこのようになっておりますが、皆さんから意見をいただいて、町の
発展のために生かしたいと思っております。

(質問者) 町長の発言は理解できますが、この地域でも若い人を対象とした催しや事業は
進められていないと思います。30~40年前はものすごく町内に活気がありましたが、ここ
数年で空き家が目立って活気がなくなったと感じます。今はリーダーが不足しているかと
思います。地域の代表者に集まってもらい、ざっくばらんな意見交換の場を設けて欲しい
です。

このままでは、限界集落になりかねません。地域内の役職に就いている若い人たちを集
めて意見交換会を開くのがいいのではと思います。予算措置よりも、そういった場を設け
て欲しいです。地域おこし協力隊を中心とした集まりができないか。若い人の力を借りな
がら、行政の職員だけでなく前進させるよう進めていただきたいと思います。

(町長) 行政指導だけでは地域が盛り上がらないとのことから、町では地域づくり委員会を設
置し、その運営や事業に交付金を出しています。中断、解散している委員会がある中でも、こ
の伊王野地区では活発に活動していただいております。今お話しいただいた、地域おこし協
力隊は空き家問題や観光、ICT教育などをやってみたい人や、強い思いがある若い世代の方、那

須町で起業したい人々を呼び寄せているところです。祭りなど一緒に取り組んでいけるような地域おこし協力隊を呼べるのではと思いますので、その募集をかけるに当たって検討させていただきます。

活動がだんだんと小さくなっている中で一番盛り上げていただいているのが伊王野地区だと思っておりますので町としてもこれからも盛り上げていきたい分野でもございます。

(質問者) 伊王野地区は高齢者を対象とした活動は比較的多く行われているかと感じます。それらも委員会が主催しているかと思うので、そういった取り組みをスムーズに若い人が受け入れられるように対応いただきたいと思います。

(町長) 活気を持たせるためにも行政でもしっかり取り組んでまいります。

(質問者) ただでさえ若い人が少ないので、ネットワークを作るのも大変だと思います。地区の消防団があると思いますが、那須町の消防団は団結力があり、関係性が構築されているように感じます。そこで構築されたネットワークを、消防団は消防団だけという枠を取っ払って、別のところで意見や力をもらうのも一つの考えなのではないかと思えます。

(町長) どういう形なら集まれるか、一度きりで終わらないように行政として提案しながら取り組んでいきたいと思えます。

また、先ほどの地域おこし協力隊ですが、一緒にこの地域を盛り上げてくれる、それを仕掛けてくれる地域おこし協力隊を求めています。若い人がこの地域に集まっただけのよう、進学して他の地域に行っても戻ってこられるような方策を行政としても取れるようにしていきたい。なかなかこれだという答えはできませんが、ご提案を肝に銘じて進めていきます。

(質問者) あまり枠に囚われず、柔軟な発想で遊び感覚でも良いと思うのできっかけを作っているいろいろなところでやっていただきたいと思います。

4 小学校中学校の部活動への助成金について

(学校教育課)

(質問者) 小中学校のスポーツ、文化大会の関東大会や全国大会など栄誉を勝ち取った際の交通費、宿泊費に対する町からの助成金が、今年度から10分の8になったと聞ききました。少子化の時代に一生懸命に子育てしている人の出費は大きく、物価高騰の折にバス代金、宿泊代金など金銭的な負担が重くのしかかっているかと思えます。せめて、町立小中学校の子どもたちが町や県の代表として上位の大会に出る場合は、金銭的な憂いがないように町として後押しをしていただくようにできないのでしょうか。

(学校教育課長) 小中学校の大会への交通費や宿泊費などの助成金は、昨年度まで10分の10交付してきましたが、今年度においては、大会数や相対的な予算の都合で、2割程度下げて交付させていただきました。

(町長) これに関しては、担当課、財政課にも相談しながら子どもたちのためになる那須町になるようにしてまいります。

ただ、他の自治体より那須町の助成金は手厚いと聞いていました。検討しながら、子どもたちの頑張りにつながる方法について考えていきたいと思います。

(質問者) 近隣市町と比べて手厚いということは承知しています。8割でも手厚いことも承知しております。その上で、伊王野地区をはじめとした小中学校の学校後援会でもかなりの金額を子どもたちの教育文化活動に提供しています。違うとは思いますが、10分の8にしても後援会があるから問題ないのではないかと考え、下げられてしまったのではないかと思います。そんなことはないでしょうが、地元の小学校も統廃合されて、それでも部活や文化活動に励んで上位の大会に進んでいることは名誉な事ですので、地域の住民としても応援しています。ぜひ、町の財政が厳しいことも分かりますが、削るところはそういうところではないと思います。

(町長) 行政も縦割りだけでなく、横でも意見交換しながら、特に子育ては那須で良かった、那須で育てられるのは一番良い環境だよねと言ってもらえるよう、しっかりと取り組んでまいります。

5 伊王野の河島医院について

(保健福祉課)

(質問者) 伊王野にあった河島医院の先生が、つい最近亡くなりました。河島医院は、比較的高齢者の需要が多かったと思います。地域に医者がいない無医村という状況になってしまったことに対して、町としては今後、新しく医者を導入するなど考えていることはあるのでしょうか。

(町長) この地域で開業していただける方がいれば、ぜひ支援をしたいと考えております。今の段階で、調査や募集等はしておりませんが、これから募集をかける必要もあるかと思えますし、開業するにあたって場所の問題や建物を貸していただけるなどあれば、話をさせていただきながら進めていきたいと思えます。

行政の方でも募集をかけてみますが、皆さんからも那須町に関わった医師等がいらっしゃれば、ぜひ教えていただき、そういう方に率先して声掛けをしていきたいと考えております。

6 墓地や土地の所在等に関する相談先について	(保健福祉課)
<p>(質問者) 民生委員をやっている関係で、心配ごと相談を受けております。心配事の多くが高齢者あるいは独り身で、自分も親も高齢者で、この先どうなるのか、お墓や土地はどうしたらいいのかということです。何の知識もないので適切なアドバイスができないでおります。都市部から高齢の2人がこの地に住むようになって、片方が亡くなり一人で生活している方も多く、そういった方々が抱える問題かと思えます。そもそもお墓がないので、作らないといけないかのかも分からない。また、先祖伝来の土地がどこなのか分からない。そもそも自分の土地がどれだけあるのか、土地の境目も把握できていない方が多いです。廃屋で誰も住んでいないのに、住民票があるのか手紙が届いてしまう。どこに相談したらいいのか。どのように対応したら良いのでしょうか。町として何か考えていることがあったら教えていただきたいです。</p>	
<p>(町長) お墓問題やお葬式ができるのかという相談、逆に墓じまいについてなど、これからまだまだ同じような相談がくると思えます。また、土地の問題については、確かに那須町では隣との境界石が入っていないところがたくさんあります。町としても地籍調査を進めていますが、まだまだ追いつかない状況です。公図困難地域については、法務局や県とも相談して、調査について法務省などにも要望活動をしています。これは、那須町だけでなく全国各地にいえることあり、なかなか前に進まないという現状があります。</p>	
<p>(税務課長) 土地については一定の条件を満たせば国が引き取る制度が昨年度からできました。所在地については、物件については固定資産税の納税通知書で所有地番はどこにあるのか確認できます。実際にどこに土地があるのかは税務課で地番図が取得できるので確認ができます。相続登記も義務化になりました。</p>	
<p>(町長) 民生委員宛に来る困りごとについて、相談事項の相談先は行政の方で調べて改めて説明できるようにしたいと考えております。</p>	
7 農業用水路の破損、懇談会の費用対効果について	(農林振興課、企画政策課)
<p>(質問者) ①三蔵川の水を農業用水として利用しています。その農業用水路が壊れまして、工事費が240万円かかりました。町に4分の1負担していただき、自治会でお金を出し合って費用の目処は立っていますが、他にも心配な場所が2～3カ所あります。異常気象と叫ばれている中でハザードマップに記載されている場所以外でも修繕しなければならないような心配な場所あるのではないかと思います。解答は不要です。</p> <p>②郵送で懇談会の二次募集が来たのでメールで参加の解答をしましたが、また郵送で受け付けた通知がきました。メールのものはメールで返し、郵送代をかけない方法を取っていただきたい。人権擁護委員も郵送でやり取りを行っておりますが、委員同士はLINEで</p>	

連絡をとっています。職員はプライベートもあり LINE は参加できないとのことでしたが、そういうものを取り除くと手間暇がかからないと思います。

時給換算したら膨大なお金をかけて1時間以上懇談会を開催されていますが、職員より参加者が少ないのが残念です。経済効果も考えたら、時給に見合う結果になるような会議になってほしいです。返事は不要です。

(町長) 農業用水の件もしっかりと受け止めて対応したいと思います。メールの件についてはその通りだと思います。今までと同じことをやっていく時代ではありませんので、町民の皆さんが思っていることを感じ取り、徹底して協力いたします。

今は70~80歳の方の携帯メール利用率が30~40%上がったそうです。利用率向上にあたって、企業や自治体での使い方説明などを行って楽しみながら認知症防止のPRをしている自治体があると聞いております。那須町においてもそういう意味を兼ねてメールなど携帯電話で発信していく時代になると思います。

また、参加者の問題についてですが、少ない参加者だった場合どういう捉え方をすればいいのか考えてきました。行政に対して興味がないという捉え方、逆に良い方に捉えると特に行政に要望がないという捉え方。やはり私としては意見がなくとも来ていただいて、行政がどのような活動をしているのかを理解いただきたい。町民のために一生懸命仕事をさせていただき、もっと那須町を良くしたいとの思いにしっかりと応えていきたいと今回も臨ませていただきました。

多くの町民の皆さまから色々な意見いただきながら、活気ある懇談会にしていきたいと思えます。

7月9日（火）芦野基幹集落センター

1 芦野山村広場旧テニスコートの老朽化したフェンスの撤去について	(農林振興課)
<p>(質問者) 旧テニスコートは10年以上前に不用となり既に取り壊されているが、フェンスの一部は経年劣化して未だに残っています。老朽化が進んでおり、景観が悪くなっています。また、フェンス周りの草刈り作業時にも、支柱が邪魔になり作業に支障をきたしています。芦野山村広場の今後の利活用について、現在は、グラウンドと広場がフェンスにより分断され、利活用の効果が出ていません。フェンスが撤去されれば、地域イベント開催時に有効利用することができることから、現地調査のうえ、早急に、適切な対応をお願いします。</p>	
<p>(町長) 該当のフェンスにつきましては、状況を確認しております。先ほども見てまいりました。皆さんの声を聞かせていただきながら、フェンスの撤去に向け、検討いたします。</p>	
<p>(質問者) 地域づくり委員会での景観整備事業の際に、草刈り等は続けてきたのですが、コロナもあって草刈が疎かになっていました。錆びたフェンスが草刈りの支障になっている状況です。</p> <p>ふるさと里づくり委員会で、芦野地区活性化に向けた事業を検討した中で、桜祭りや体育祭、花火大会など有効利用できるのではないかと。それなら町に撤去してもらいたいという意見がでました。芦野地区の代表者の総意として要望いたしますので、検討いただきたいと思います。</p>	
<p>(町長) 町としてもリサイクルできるかといったこともありますが、なかなか難しいと思います。地元の方が自分のところで撤去してもいいという声があれば、お声がけいただきたいと思います。</p>	
<p>(質問者) こちらで撤去する場合、申請すれば問題ありませんか。</p>	
<p>(農林振興課長) 町で撤去する場合は、来年度当初予算の計上を考えていました。地元での撤去は町としては願ってもいない事ですが、撤去費用より処分費用がかかると思われるのでご相談いただければと思います。</p>	
<p>(質問者) 以前、後ろにもあったフェンスを地元で撤去したのですが、セメント等が取りきれないということをご承知おきください。</p>	
2 部活動タクシーについて	(生涯学習課)
<p>(質問者) 茨城県城里町で、小規模校の部活動の取り組みとして、部活動タクシー（無料）</p>	

を運行している情報を NHK で放送していました。放課後の部活動において、人数が少なく練習が思うようにできない子どもたちを連合チームとして活動している中学校へ送り届けるタクシーです。素晴らしいと思いました。以前から「あればいいのに」と思っていました。那須町で検討してください。

(町長) 城里町の部活動タクシーは、少子化の影響で廃部する部活動が増えていることから、部活動の選択肢が少ない小規模中学校の生徒が希望する部に入れるようにするため、別の中学校の部活動へ送迎する取り組みを学校教育の一環として行っているものです。

一方、国や県においては、部活動の取り扱いについて、学校教育活動から生涯学習活動への移行が示されており、町としては、少子化の中でも、将来にわたり児童生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会の確保を目指して、学校部活動の地域クラブ化に取り組んでいるところです。

具体的には、学校部活動制度の廃止に伴う受け皿として、活動主体の地域クラブ化を行うものです。地域クラブ化にあたっては、自主運営による組織を考えております。

よって、現在のところ、児童生徒の移動については、クラブ内または各ご家庭で行っていただくことを基本として考えております。

(質問者) 部員が少なく、小規模学校だからという理由で部活を選択できないのは悲しいことだと思います。子どもたちは、やるからには勝ちたいという思いで一生懸命です。地域移行は難しく分かりませんが、クラブチームになり、送迎が必要になったら、もっと移動タクシーの支援が必要なのではないでしょうか。町の方でも地域移行を検討しているならば、もっと力を入れて取り組んでもらいたいところです。部活動に優しい協力的な那須町であってほしいと思います。

(町長) これは那須町だけの問題ではありません。7月5日に知事をはじめ、那須烏山市、大田原市、那須塩原市、那珂川町、那須町の5つの県北の市町での会議でも、この話題がでました。連合チームを指導していただける方等に対して支援をしていく取り組みや、子どもたちが部活動を選べる取り組みを、町としても模索していますので、今回の意見も参考にさせていただきます。

(教育長) なぜ部活動地域移行なのか、学校が少子化の影響で自分の希望する部活動が無くなっていきます。このまま学校で、今ある部活動を続けていけば、子どもたちの多様なニーズに応えられないということで、地域のクラブとして活動した方がいいのではないかというのが国の考えです。今まで全くそういった土壌がない那須町では悩んでいるところがございます。那須町の現状の進捗では、学校部活動から、地域のクラブ活動にしようという考えです。地域のクラブ活動として子どもたちが放課後や休日に豊かな体験の機会を提供したいと考えております。例えば、平日3日、休日1日、計4日をスポーツ活動

をし、他の日にプログラミングなどの文化部活動もできるように、子どもたちのニーズに応えられるようなシステムにしていきたいと考えています。

また、中学校の休日における部活動の地域移行について、国の方で進めています。那須町においては小学校も学校の教員が関わっており、学校単位であるのが状況です。那須町では小学校も該当に入れて地域クラブ作りをしていこうと考えています。平日と休日の両方を視野に入れて地域移行を考えています。保護者、地域住民が率先して指導者になって、研修を受けていただいてクラブ活動に関わっていただくような、そういったことを考えています。

一昨年、和い輪い学習フォーラムの中で、責任の所在をしっかりとしてほしいという意見が出ました。町の現在の方向性としては、指導者の研修やきまり事を作る上部団体を作りたいと考えていますが、今は足踏みをしてしまっているのが現状です。現在、部活動地域移行の協議会を立ち上げて、昨年度の後半から意見交換をしています。もう一つ、その下部組織として幹事会があり、保護者、指導者から意見をいただいて前に進むように検討しています。

また、地域の方、特に保護者に向けて進捗状況をお知らせしなくてはいけないと思います。小中学校の保護者、教職員に現在の進捗状況の説明会をして、皆さんからご意見をいただき、また軌道修正をしていきながら進めていきます。

タクシーでの送迎については、あり方を検討していきたいと考えております。行きたくても行けない子どもがいるのではと思うと、なかなか苦しいところではございますが、今までの学校部活動と違って全員必修ではないので、やりたい子どもがやりたい種目を選んでできるようにして、また、要保護、準要保護の子どもには町として手厚く支援していきたいと検討しております。

3 企業誘致について

(企画政策課)

(質問者) 65歳以上の高齢者率が40%を超え、2030年には50%を超える見込みです。なぜ、高齢化が進むのか、人口減少してしまうのかを考えますと、子どもが就職する年代でほとんどよそへ出ています。働くところがないからです。いくらスローガンを掲げても、子育てをする親の働くところがないと町に残れないかと思います。いつも検討します、との事ですが、その後どのような姿勢で取り組んでいるのでしょうか。

(町長) 那須町の高齢化率は43.09%です。しかし、県内で唯一、消滅可能性自治体から脱却したのは那須町だけです。いろいろな方が那須に注目していただいております。コロナ後の財政を回復させるには、観光、外国からの誘客事業かと思います。那須周辺エリアは関東で唯一、高付加価値なインバウンドの指定をいただきました。

企業には今もアプローチは続けていますが、人口の問題、今後の伸びしろの問題などがあります。その中でチェーン店の出店にあたって企業が町を見る際には、観光客や売り上げだけでなく、自治体が、町が、県がどのくらいインフラ整備をしているかを見ていると

いう情報もいただいています。工業団地誘致になると費用は莫大になると思います。物流倉庫に関わる企業は、災害物資、人口の流れ、栃木県的那須は関東の一番最北、逆を言えば東北から関東の一番の玄関口でもありますので、そういったところにも注目しています。また、物流の関係道路は那須町が4号線と高速道路が平行しています。災害が起きた時には心配ですが、逆にそれだけ必要な場所なので、国道4号線片側2車線化、高速道路を6車線化の要望活動も行っています。

(質問者) 栃木県の北部は災害に強く、引っ越し希望者もいます。八溝山は地盤が硬く安全という事を含めて、情報発信していただきたいです。小規模事業所が引っ越してきて、IT系の方もテレワークで来ているのもあり移住者が増えています。その辺をアピールできたら、大きい企業を誘致するのは大変ですが、小規模な事業者が増えて活性化するのでしょうはないでしょうか。

(町長) 災害に強い事はPRさせていただいたこともあります。以前、国会移転の候補地選ばれたこともありました。那須町は全国の二地域居住促進協議会の副会長も担っています。会合ではその都度PRしております。栃木県知事、市長会、町村会に呼びかけ、協議会へ県内全ての市町に加入していただきました。これは、全国でも栃木県だけです。国が提案するのではなく、協議会として意見を申せる立場になりましたので、災害に強い、バックアップ機能を持てるという事をPRさせていただいております。

4 空き家について

(ふるさと定住課)

(質問者) 空き家を調査してると思いますが、住めるような空き家ではなく、廃屋もあります。所有者の住所がわからないので、連絡ができません。万が一、火災や倒壊になった際に町から住所を教えていただけますか。

(町長) 危険な空き家の対策調査をしております。地域おこし協力隊などが、ドローンを活用して調査しています。使える物と使えない物の住み分けをしている状況の中で、廃屋に関しては住所と連絡先を調べて解体等のお願いをしております。

(ふるさと定住課長) 倒壊の恐れがある危険な家屋については、所有者を調べて適切な管理をお願いしています。また、空き家審議会などにおいて特定空き家に認定し、解体などの事業に補助を出す仕組みがあります。そういった場所があれば一度場所を見て所有者にアプローチをかけていきたいと思っています。

5 消防水利について

(総務課)

(質問者) 寄居地区はようやく上水道が入りました。消火栓は、通常、配水管の直径が75ミリ以上必要かと思います。上水道が入っている地区で消火栓がないというのはめっ

たにないと思いますが、寄居地区で、配水管が細く、消火栓が取れないところもあると思います。この辺のところのどうなのか。また、配水管が敷設されていないところの消火栓に代わる物の対応など消防水利の確保をお願いします。

(町長) その地域で水利を確保できる川の確認や消火栓使用の有無は調査をしています。

(総務課長) 消防水利については、消防署と協力しながら消防水利が不足する箇所を調査しています。消防水利はさまざまなタイプがあると思います。水道管から引く消火栓、防火水槽、消防車両、ポンプ車両、自然水利などで確保しています。先ほどの水道管の太さが細い場合、本来は消火栓がいろいろなところにあるのが理想ですが、細いところに無理やり作ると周辺に支障が出ますのでなかなか難しいですが、地下式の防火水槽ができるかなど、消防署、上下水道課と協議して、火災時に対応できるように引き続き協議して検討いたします。

(質問者) 防火水槽ですが 40 年、50 年も前に造られたものがありますので、それらの調査もお願いします。

(町長) 調査してまいります。

6 消防団員の確保について

(総務課)

(質問者) 那須町消防団は約 550 人で、ここ 30 年で平均すると年間 100 人ほど減少しています。現在の団員数でなんとかこなせる状況です。今後は立ち行かなくなる組織になると思いますが、若い人に入っていただくとしても中々難しいです。

自主防災組織を立ち上げていると聞きますが、もっと連携を取れる形にしていかないと、大きな災害時に立ち行かなくなるのではないのでしょうか。人員不足で限界にきている消防団も出てきています。統廃合も視野に入れて町で将来的なことも考えていかなくてはならないと思います。

(町長) 消防団の確保に苦慮しているのが現状です。行政としても団員の声、統廃合に向けて前向きに検討していかなければならないと感じています。

地域の団員の方、団体のトップや自治会との意見交換をしながら、スピード感をもって対応しなければいけないと考えています。災害は待つてはくれないので、その時に対応できなかつたと絶対にならないようにいたします。

(総務課長) 団員確保の対応に頭を痛めています。県内 11 の町では那須町が一番多く、登録者 550 人であっても色々と課題はあるかと思えます。一昨年から全団員の意見の聞き取りを行っており、団員数が少ない所は統廃合も同時に考えて、地域の防災力を低下させないように町も努力していきたいと検討しております

(町長) 那須町は団員数が多いという話をしましたが、そもそもの町の面積も大きいので、広いエリアを賄えるかという問題もあります。

7 消滅可能性自治体について

(企画政策課)

(質問者) 芦野地区の人口構成比について、高齢化率が43%、1年に1%伸びていき、あと30年経ち70%を超えると、高齢者が一人で生活しているような時代になってしまいます。ですので、10年後、20年後を見据えた取り組みを行政にやっていただき、若い世代にバトンを渡していただきたいです。

東北新幹線が通っている西那須野は若い世代が伸びています。ばらつきが出ているのは近隣市町の施策に対して那須町は遅れている、魅力がないからだと思います。子育て支援の町、近隣市町よりいい環境であることをPRいただく方法を考えていただきたいです。将来的に人口を増やす場合の政策として、親元から近隣市街に勤めた場合の交通費補助金などを考えていただきたいです。

また、子供が出ていき女性が少なくなってしまう一番の危機的な状況を打開するために、大学を卒業して戻ってきた場合、奨学金を免除、Iターン補助金など、近隣市町にならない子育て支援政策を全面にPRして欲しいです。那須は自然が良く、若い世代が観光に来る魅力があるので、定住移住にも力を入れて補助制度などできる事から政策をしていただき、消滅自治体にならないためにも行政の手腕が問われる時だと思います。

(町長) よそにはない魅力を発信していかなければならない。新たな補助制度などを模索している所であります。那須町が良いところを発信していくように努めております。また、孫留学させて欲しいと提案しています。子育てしやすい町になるためにも、おむつ無料券、不妊治療など他自治体が行っていないことを行っていますが、子育て世代には伝わりにくいかと思います。那須に関わっていなかった方にも来ていただけるような施策を続けてまいります。

(質問者) 成功している自治体の中には、20代、30代40代50代の女性だけを集めた女子会で子育てに必要な討論会を行っています。そこでは成功しているようです。

7月10日（水）高原公民館

<p>1 那須町長として、那須町の強みと弱みにつき見解を！（企画政策課・ふるさと定住課）</p>
<p>（質問者）那須町の強み、弱みにつき町長の所見を伺いたい。 上記の観点から那須町を取るべき戦略を伺います。</p>
<p>（町長）本町の強みは、年間500万人以上が訪れる有数の「観光地」であること。そして、自然豊かで、農畜産物や芦野石、八溝杉などの産地としても恵まれた農林業の町であることだと考えております。</p> <p>強みに関する戦略としましては、「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり事業」のモデル観光地に選定されたことなどによる、全国で11カ所選ばれているなかで関東で唯一この那須周辺地域だけでございます。これについても強みと考えております。外国人観光客の誘客や、那須町観光協会が登録DMOとなったことによる国内旅行者の誘客を更に促進していくことと考えております。</p> <p>農林業としましては、有害鳥獣対策の実施、安全・安心な新鮮野菜の提供による、那須町の農産物のPR、また林業については、上質な木材の産出を行っていきたいと考えております。</p> <p>本町の弱みとしては、若者が住めるようなアパートが少ないことと、高齢者の移動手段や電車やバスなどの二次交通機関が少ないことだと考えております。</p> <p>弱みに関する戦略としては、若者や新婚子育て世帯が入居可能な団地の整備推進、そして高齢者の移動の円滑化の確保及び372.34k㎡という広範囲な面積を効率的に移動できる仕組みづくりが必要と考えております。今後も対策を検討するとともに、先進事例の研究及び検討を図っていききたいと考えております。</p>
<p>（質問者）ローカルバスが空席のまま走っています。これを何かお金に還元できる物にしたい。フリーパスのような乗車券ができれば地域に流れができるのではないのでしょうか。車で走るばかりではなくて、バスで観光気分を味わえるようにしてはいかかでしょうか。孫と一緒にバスに乗りたいのですが単発だと高いので、何かそういうことで活性化するのであればバスに乗せてあげたいと思います。さっと乗れて、目的地に着いたら、またさっと帰って来れる町民バスを実現していただきたいと思います。</p>
<p>（町長）今走っているのは、関東自動車のバスでして、関東自動車でも多くの観光客や地元の方に乗っていただきたいと模索しています。大変恐縮ですが、詳しくは把握しておりませんけれどもフリーパスは既に行われていたかと思います。</p>
<p>（質問者）関東バスさんにもお声がけいただいて、何とか夢の実現をお願いします。</p>

2 那須町の未来戦略について	(企画政策課)
<p>(質問者) 那須町の未来戦略として、観光-地理的優位性を生かし中央官庁-民間企業の誘致を広く計るべきです。具体的官庁は、環境庁、農水省出先が民間は IT 企業です。</p> <p>東京一極集中を是正し、地方分散を那須町が先頭に立って推進すべきです。具体的には、役所-企業の生産性向上、その他を数値化し、那須町の優位性を実証する実験プロジェクトを国家予算を獲得し立ち上げることか肝要です。これを那須町で全国に先駆けて展開すべきです。国家プロジェクトの誘致には実務有識者のノウハウと町の理解が不可欠です。町長の英断を求めます。</p>	
<p>(町長) 企業誘致は、地域活性化や雇用機会の拡大のため積極的に取り組んでいくべきものと考えております。また、中央省庁をはじめとする国の機関や民間企業などの分散型社会の構築も必要と考えております。</p> <p>国家プロジェクトの誘致にあたっては、那須町も積極的に手を挙げていきたい気持ちはあるものの、選ばれる条件として、すぐに利用できる土地の必要性が挙げられます。全国に先駆けてというのは難しいかと思いますが、企業誘致や中央省庁の分散化などには、積極的に取り組んでまいります。</p>	
3 企画やイベント等の宣伝について	(観光商工課)
<p>3月にマウントジーンズが閉業し、来年サッポロビールが閉所します。昔から那須町に開業しては数年経たず閉業してしまうお店も沢山ありました。納税者が減ってしまうことは那須町にとっても良いことではありません。大企業の撤退になんとか歯止めをかけられなかったのだろうかと思ってしまう。町を盛り上げようとしている人や企画が色々あるのは重々承知しております。しかし、それらは企業が独自で行っているなどと、個々がとても小規模です。それゆえ宣伝もあまり大々的ではなく、まず人の目にあまり触れていないのではと考えております。経営の持続的な集客が必要ですので、もっと町ごとに輪を作って協力していけないものかと存じます。</p>	
<p>(町長) 町では、観光協会、商工会、森林組合、農業協同組合で構成する経済四団体と連携し、那須ブランド品の PR や那須九尾まつりなどの各種イベントに取り組んでいるところで。今後もこのような取り組みを通して関係団体と情報を共有し、協力しながら町内の企業をはじめとする商工業者、観光事業者、農林業者と連携し、町のさまざまな魅力を発信してまいります。</p> <p>なお、今後は町ホームページのイベントカレンダーへの投稿など、情報発信に向けて検討してまいります。</p>	
4 那須町の観光について	(観光商工課)
<p>観光立国那須町の将来の展望はどうでしょうか。</p>	

(町長) 昨年9月に観光協会がDMOに登録され、さらには那須地域が地方における高付加価値なインバウンドモデル地域に指定されるなど変革期をむかえていると実感しております。これからDMOを中心に、データに基づいた戦略的な観光施策を実行し、観光客の満足度、リピート率を高めるとともに消費額の向上を図ってまいります。

また、那須町に住む人、働く人、訪れる人が幸せになる町を実現するため、関係機関と協力し、地域一体となって観光地としての価値を高めていきたいと思っております。

5 観光税について

(観光商工課)

観光税は先走りしないで他市町の様子を見るのがよいのではないのでしょうか。必要な観光整備は町で行うことはできませんか。

(町長) 現在は、観光協会や温泉旅館組合が中心となり宿泊税導入に向けた検討がなされている段階と聞いております。全国の観光地で導入を検討しており、観光に関する財源不足の解消に向けた動きが活発になっていることは事実であります。那須町も他自治体の動きを注視しながら慎重に検討していきたいと考えております。

6 観光行政について

(ふるさと定住課・観光商工課・建設課)

- ① 廃屋や家屋撤去後跡地の整備をどうしていくのでしょうか。(ふるさと定住課)
- ② 八幡のツツジ群落の管理をどうしていくのでしょうか。(観光商工課)
- ③ 町営スキー場やマウントジーンズ那須の跡地をどう利用していくのでしょうか。(観光商工課)

(町長) ① 廃屋や跡地の整備については、倒壊等著しく保安上危険となるおそれのある建物と判断できる場合は、特定空家等に認定し、所有者に対し解体に要する費用の一部を交付し、解体を促進しております。廃屋等の撤去後に空き地となる場合は、所有者に適正な管理をお願いしております。

また、宿泊施設や観光施設の廃屋については、国の補助メニューに廃屋撤去に要する経費を対象としたものがございますので、施設の所有者様と情報を共有させていただき、対応してまいりたいと考えております。

② 八幡のツツジ群落の管理については、例年、多くの観光客が訪れる名所となっておりますので、土地の所有者である環境省と適切な管理方法について協議してまいります。

③ スキー場跡地利用については、町営スキー場については、現在、利用のための実証実験を行い、どの様な需要があり、どの様に活用していくことができるのか検討しております。また、マウントジーンズ那須については、スキー場建設前の状態に戻すため、施設の解体等を行っていると同っております。

(質問者) 八幡のツツジ群生地はツツジがだんだん見えなくなってきました。ツツジは

低木なので、紅葉や松の木など背の高くなる植物の陰になってしまい、生育が邪魔されてしまいます。八幡のツツジの群生を10年20年と続けるためには庭師を入れるなどの施策をしていただいで景観を維持してほしいです。

また、観光時期を前に那須街道の道路脇の草刈を毎年してもらっています。道路から縁石、側溝があり、そこから林、森になっていますが、草刈の仕方が表面上の草をただ切っているだけで、土を除去していないため、また草が生えてしまいます。那須の観光というものは景観を含めての観光だと思いますので、せめて、3年に1回は土を除去して草刈りをして欲しいです。行政として今の状態で良いのか回答をいただきたいです。

(町長) 八幡のツツジ群生地を保護するため、町から環境省に交渉していますが、環境省はツツジだけでなく生えている植物は全て守るべきものという考えがあります。枝を落とすといった対応も難しですが、何か方法がないか交渉してまいります。

草刈りについては那須街道ですので、町からも県の方に要望をつないでいきたいと考えております。

(副町長) 草刈りについては非常に予算がないため、基本的に年1回、路肩から50センチ刈るのがやっとです。現在は春に除草剤を使わせてもらえないかということ相談し、試行しています。刈った草も処分費用がかかり、一部は地元にも協力いただいておりますが、非常にコストが高くなっています。土砂に関しても、路肩に葉っぱや土砂が貯まり、そこから草が生えて、水が溜まってしまいます。

予算はないのですが、那須町は観光地で多くの方がいらっしゃるの、せめて那須町の観光地だけとは土木事務所に引き続き要望してまいります。

7 那須町の住居と就労場所拡充について

(観光商工課・ふるさと定住課)

(質問者) 町が栄えるための条件の一つは人口の多さだと考えています。以前から那須町はアパートなどの賃貸物件及び就労できる場所が少なく感じています。そしてその原因は特に閑散期に仕事が減少し生活に困ってしまう人が出てくるので、雇用側も多くの人を雇えないというところに問題があります、町が一丸となってこれまで閑散期であった時期でも通年観光客を呼び込める魅力作りが必要だと考えます。

(町長) コロナ禍を経て観光客数の回復に伴い、特に観光事業者は人手不足が大きな課題となっております。県と連携し就職相談会を実施したり、那須町観光協会ではハローワーク共催で合同就職説明会・面接会を開催したり、雇用側と就労希望者側双方に支援してまいります。また、町としても、賃貸物件の少なさは感じており、若い世代の定住に向け、新婚・子育て世帯向けの集合住宅を、設計、施工、維持管理を一括して民間事業者が担う「PFI方式」で整備したところです。筒地地区に新しい橋が架かることにより黒磯市街地へのアクセスも向上することから、土地を取得し、ニーズに合った住宅の建設にむけ計画を進め

ております。

(質問者) 先ほどの那須町の取り組みでも婚活の話が出ていましたが、大事な話であると思います。単身で結婚しない方が増えています。1つの例ですが、那須塩原市は塩原温泉郷の温泉娘に力を入れているので、これに関係して、塩原に単身者が引っ越してきていると聞いています。ここで働きたいというケースも増えています。那須町でも時代にあわせて単身者でも住みやすく働きやすいまちづくりができればいいのではと思います。その先でこちらで誰かと出会って結婚してということも起きてくると思います。その辺に力を入れていただきたいと思います。

(町長) 若い人を呼び込む方法として、若い世代、特に女性の声は必要だと感じているので、これからもご意見等伺っていきたいと思います。ただ、那須町が決して若い人が都会から来ないといないというわけではございません。那須町と那須塩原市だけは県内で転入超過がございます。都会からの転入者は那須町が県内で一番多くいます。ですが、那須町から那須塩原市への転出者も多く、それで、那須塩原市の数が多くなっています。

もっと那須町の皆さんに町を大好きになってもらい、PRしていただきたい。どうしても隣の市、隣の町はよく見えます。逆によそから見ると那須町は良く見えます。よそを褒めると同時に、那須町も好きになってもらえるよう取り組んでおります。

(副町長) 令和元年から令和5年の間に那須町から出ていく人、入ってくる人の差である転入超過は、この5年間で359人です。高齢者が多いイメージかと思いますが、内訳としては、10代20代は転出者が多く、僅かですが、90代以上も転出者が多くなっています。それ以外の0歳代、30代以降は転入者の方が多いのが現状です。

それから、令和4年度のデータでみると、栃木県の転入超過は7市町で、那須町と那須塩原市は県外からの流入が多く、他は県内の異動です。那須塩原市は275人が転入超過、その内、県内からは133人、残りの142人は県外から来ています。つまり、実際に栃木県に人口が増えたのは142人です。那須町はどうか。那須町は69人が転入超過です。これは、195人が県内に対して転出超過でその内、那須塩原市に162人に行っています。その代わりに、264人が県外から来ています。この内、6割7割が首都圏から来ている状況です。那須塩原市へ那須町から移動するということは、那須地域でみると人口が減っていないということです。那須塩原市と那須町が全国から人を呼んでいるのが実態で、その中でも一番多く人を呼んでいるのが那須町です。

8 地域おこし協力隊の活動や成果、効果測定の公表について(ふるさと定住課)

(質問者) 地域おこし協力隊について、着任のアナウンスは広報などで知ることができますが、目的に対して活動内容や効果、事業性や収益性など具体的に投入する金額やリターン、目標(達成尺度)などに定期的に知り得る環境を整えて欲しいです。※活動内容を広

報で発信する取組みは評価しますが、目標や成果を知り得る内容になっていないです。

(町長) 地域おこし協力隊の活動内容につきましては、広報那須において活動記録を連載するとともに、フェイスブック、X等のSNSにおいても情報を発信しております。また、地域おこし協力隊制度の目的は、都市地域から過疎地域等に住民票を異動し、地域への定住・定着を図る過疎化・高齢化対策となっておりますので、それぞれの隊員が最終的な定住・定着を目標として地域協力活動を進めております。

なお、地域おこし協力隊に係る財源は国から町に特別交付税として交付されているところです。

9 廃屋や廃墟、廃店舗への取り組みについて (ふるさと定住課)

(質問者) ロイヤルリゾートとして羨望の地である那須町なのに、那須エリアに入るとあちこちに廃屋や廃店舗が目立ち那須の美しい景観が損なわれています。これは町の大変なイメージダウンです。それだけでなく廃墟は危険でもあります。

どうにかしてこれらの廃墟を早く解体処分するなどして景観を改善して頂きたいです。また、国立公園内の別荘地にも多くの廃墟が点在しているのもとても嘆かわしい実態です。別荘の場合はほとんどが那須町外の所有者であると思います。那須町民にはこれらの廃屋の処分等負担する責任はないと思います。登記の問題や現所有者の所在確認ができない等と言うのは、国が今までいい加減な対応をしてきたからに他なりません。近く登記に関する法律は改正されるようですが、強く国あるいは県に働きかけて廃屋処理に関する予算を捻出してもらうなどすべきと思いますが、如何お考えでしょうか。

(町長) 倒壊等著しく保安上危険となるおそれのある建物と判断できる場合は、特定空家等に認定し、費用の一部を交付し、解体を促進しております。また、管理不全空き家につきましては、所有者に改善措置を求める通知を发出しております。

特定空家の解体につきましては、既に国・県より支援をいただいておりますが、より事業を加速化させるため、制度の拡充、要件緩和並びに管理不全空き家に対する支援などを求めて参ります。

10 知的好奇心をくすぐるようなイベントに関して (生涯学習課)

(質問者) 那須町民になってから3年になりますが、アカデミックに、知的好奇心を高めるようなイベントや催しが大変少なく感じます。これは那須町民に留まらず、広く対外的に那須町をアピールする意味でも物足りなさを感じます。

例えば、先般の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」で上総介と三浦介が登場したら、九尾の狐と密接な関わりがあるのですから有識者等招いて講演会を開くとか、歴史的見地から那須町を広く宣伝すべきだったのではないのでしょうか。

何故この地に御用邸があるのか、保養地温泉地としてかつては大物芸能人もこぞって訪れ

た湯本エリアの歴史等など、地元民が知らないのにはびっくりさせられます。

お隣の福島県白河市では早稲田大学のジャズハイソサエティーバンドを招いて素晴らしいコンサートを開催したり、WBC ジャパン栗山監督の講演会があったり、知的好奇心をくすぐるイベントが絶えず行われています。那須町は東京から近い高級リゾート地であるという意識とプライドを持ってよりアカデミックな催しや取り組みを行うことによりさらにファン層を広げるべきと思いますが如何お考えでしょうか。

(町長) 町では、文化センター自主事業を開催しております。昨年度は那須町ゆかりの九尾の狐伝説にまつわる「かたりべ」の公演や、ジャズバンド公演などを実施し、今年度につきましては、落語家・瀧川鯉斗氏を招いた落語会などを実施いたしました。今後は「NHKの新・BS日本のうた」や「ライブイベント」などを予定しております。来年度以降も、町民の皆さまのご意見を取り入れながら、より満足度の高い事業を実施していきたいと考えております。

また、那須歴史探訪館では、令和4年度に、学芸員らが講師となり、「鎌倉殿の13人の登場人物」というテーマと「上総介と三浦介」のテーマで講座を実施いたしました。地域住民の方々には当町との関わりをお伝えできたものと考えております。昨年度には、那須温泉の歴史についての展示や関連講座も実施しております。

一方で、歴史的資源を使った全町的なイベントの実施や地域外への発信については、今後強化していく必要があると考えておりますので、調査研究をまいります。

1 1 ゴミのポイ捨てについて

(環境課)

(質問者) ゴミのポイ捨ては観光イメージを下げするため、条例で罰金など、厳しく取り締まることはできませんか。

(町長) ゴミのポイ捨ては不法投棄であり、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」で罰金等の罰則規定があります。町条例で罰則(過料)を定めても、現場での過料徴収及びそのための取り締まりには、大きな人的、物的コストがかかることから、現状においては実行性に欠けたものとなってしまいます。一方でゴミのポイ捨てを防ぎ、観光地としての価値を維持することは極めて重要であることから、国や県、関係機関と連携しクリーンアップ活動を実施するほか、他自治体の成功事例を調査・研究まいります。

1 2 高齢者の生活について

(保健福祉課)

独居高齢者の自立ができなくなった時の生活は、年金だけで暮らせる施設がありますか。

(町長) 町では、高齢者の皆さまが住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう、介護予防・認知症予防のための様々な支援を実施しておりますので、まずは介護予防・認知症予防のための取り組みへのご協力をお願いいたします。

独居の方で介護等が必要となった場合には、ケアマネジャーや地域包括支援センター等とともに、介護サービスによる日常生活の支援のほか、成年後見制度の活用支援、地域での見守りなどの支援を実施しております。

また、施設への入所が必要となった際にも、状況に応じた適切な施設への入所について支援しておりますので、まずは町保健福祉課またはお近くの地域包括支援センターまでご相談ください。

1 3 クリニックの設置について

(保健福祉課)

(質問者) 観光について力を入れている事は分かりますが、循環器のクリニックがない事を心配しています。心臓病の方は、発作が起きてから30分以内に病院に行けないと絶命する恐れがあるので、命が心配だということで那須に来られない友人がいます。

クリニックを1つ作ることは大したことはありません。5000万円もあればできます。私は榊原記念病院を設計した経験もありますし、命を守る観光地ということで、心臓病の方を助けられると思い設立を希望します。

(町長) クリニックの設置は、いろいろと模索しているところではありますが、なかなか難しい状況です。もし、那須でぜひ開業してたいという方がいれば、町としても歓迎いたします。また、それに対する意見交換もしたいと思います。

1 4 那須町の人口推移について

(企画政策課・観光商工課)

(質問者) 那須地区は人が減っていないとのことですが、最終的には那須町から那須塩原市に人が移っているとの事で間違いはないでしょうか。

(副町長) 那須町と那須塩原市を比較すると、那須町から那須塩原市に出ていることは間違いありません。理由としては那須町にはアパートがないので、黒磯、鍋掛あたりに住まいを求めの方が多いということです。ただ、それ以上に県外から那須町に来ている人が多く、那須塩原市に対して那須町は倍、転入者が来ています。

ただし、人口が減ってきている背景には、転入者は多いが、自然減があることも事実です。那須に職場はあるのに、住むところがないので那須塩原市に移住してしまうということなら、那須町にも住む場所を作ろうということで、新高久エリアに土地を取得し、PFI事業でアパートを作ろうと今年から調査に入り、土地を取得しました。もう一つは子どもが少ないこと。この2点を町としても対策しております。

(質問者) 数値的なものは理解できました。理由もわかっていて、それに対する対策もしている。あとは、自然減をどうにかすることということで、先ほどの病院の話につながるかと思いますので、ぜひ良い町づくりをしていただきたいと思います。

(町長) 先ほどのデータの5年間の詳細はふるさと定住課にあります。こちらについて、分かりやすい数値を議員にも提供いたします。5年間の合計として転入、転出の数値をまとめております。那須町の状況がおわかりいただけるかと思えます。那須町が消滅可能性自治体から脱却できた事についての資料として用意したものです。

(質問者) データは取り方で対策が変わってしまうかと思いますが、DMOでもデータの取り方によって対策が変わってくるので、町からDMO、観光協会にも専門家を紹介するなりして、確実な対策がとれるデータを取っていただきたいです。

(町長) 那須町観光協会は昨年9月に地域DMOに登録されました。職員に㈱リクルートから派遣いただいています。他にも足利銀行や那須町からも観光協会に派遣して様々な角度から業務を行っています。絶対に負けない先進事例になるDMOの地域として、そして観光地となるように、御用邸、日光国立公園もありますので力をいれております。

15 友愛の森について

(観光商工課)

(質問者) 友愛の森に素晴らしい直売所を作っていただきありがとうございます。次は農村レストランを石のステージのところに作るの事ですが、そこに作ってしまうと従来のイベントができなくなるのではないのでしょうか。

友愛の森はイベント会場としての機能も大きく、イベントをすることで活気ある那須町未来ある那須町にすることもできると思います。私の考えでは、イベントもできる災害時の防災館にしてはどうでしょうか。雨が降った時はコンサートや展示会、卓球などができるような多目的ホールを従来の石のステージのところに作ってはどうでしょうか。既に遅いかもかもしれませんが。

(町長) 道の駅友愛の森の直売所と物産センターを1つに合わせて、新築で「那須ロイヤル高原マルシェ」として7月3日にリニューアルさせていただきました。道の駅は友愛の森と東山道伊王野に2ヶ所ありますが、友愛の森においては、ハブ機能、情報インフォメーション機能として、何処で遊びたいのか、何を求めているのかをここで発信して、町全体を見通して、希望する場所に行っていただきたいと思っています。その中で、ご提案いただく事は大変ありがたいのですが、既に、今年からレストランの新築が始まります。ただ、防災センターの必要性は考えておりますので、今後、しっかり対策を練っていきたいと思っています。今の状況下においてレストランを取りやめてホールにするのは、大変申し訳ありませんが、難しい状況です。

7月17日（水）ゆめプラザ・那須

1 消火栓のメンテナンスまたは廃止促進について	(総務課)
<p>(質問者) (以前のまちづくり懇談会で) 各町内会が担当との答弁ですが、3～5年で交替する会長や役員の認識、責任は薄い。現在のままでは火災発生時にBOXが開かない、ホースが無い、使えないなど必ず問題になること必至と判断します。消防署も使える所、使えない所、消防水利確認は大丈夫なのでしょうか。メンテナンスか廃止かのルールを明確化し町民への説明を切望します。</p>	
<p>(町長) 消火栓の点検につきましては、事業所等が所有する消火栓を除き、地域の消火栓や防火水槽を、消防署において年1回は点検しております。今後も消火栓等 消防水利設備の点検は継続していきますが、地域でお気づきの点がございましたら、ご報告いただけると幸いです。</p>	
2 自治会退会者が多くなっていることについて	(総務課)
<p>(質問者) ①災害などが起きた折には、対応がむずかしくなるのではないのでしょうか。 ②各種募金活動等の折の自治会の対応について、会員は回覧により理解するが、退会者にはその趣旨が行き渡らないのではないのでしょうか。 ③地区消防関係費用集金について、良い方法はありますか。</p>	
<p>(町長) 1つめの災害時の対応についてです。災害時は、災害情報や避難情報等を那須町安全安心メールや防災行政無線をはじめとした様々な方法で町民の皆様へ情報を素早く伝達することにより早期避難等の対応をしております。一方で、地域の皆さんが、日頃から顔の見える関係を築き、互いに助け合い、協力し合う「共助」も重要であると考えており、自主防災組織の設立支援も行っております。町としましては、引き続き自治会への加入促進を図ってまいります。</p> <p>2つめの各種募金の趣旨伝達につきましては、文書配布による回覧やホームページ、イベント等で周知しているところですが、今後、自治会未加入者に対しましても那須町公式LINEやメール等の活用により更なる周知を図(はか)りたいと考えております。</p> <p>3つめの消防団協力金の集金につきましては、地域と各団との相互理解のもと、適正な対応をお願いしているところです。</p>	
3 月2回の広報紙(等の配布)について	(総務課)
<p>(質問者) 近市では、月1回の配布だが、町としては、どの様に考えていますか。</p>	
<p>(町長) 現在、町が行っている文書配布につきましては、きめ細やかでスピード感のある情報・意思伝達のため、月2回の実施としております。</p> <p>昨年度、全自治会に対し行ったアンケートの結果は、「現状維持」との意見が多数であつ</p>	

たことや、見守り活動の観点から月2回の実施を望む声等もありますので、当面の間、月2回の文書配布を継続したいと考えておりますが、今後、那須町公式LINE等による情報発信の活用が図られることにより、文書配布の回数の検討をしたいと考えております。

4 若い移住者が増えるようなまちづくりについて (ふるさと定住課)

(質問者) 私は昨年末に那須に移住してきました。若い世代が楽しく暮らせるようなまちづくりをしてほしいです。インバウンドの旅行者や富裕層が沢山来てほしいです。

(町長) 那須町は平成27年度からふるさと定住課を設置し人口減少対策に取り組んで参りました。平成31年度からの人口は転入超過で推移しており、今年度は消滅可能性自治体からも脱却したところです。

今後も移住定住・企業誘致につなげるための施策を展開して参ります。

5 若者の定住促進について (ふるさと定住課)

(質問者) 私は結婚を機に那須町の現あごハイツに十数年住み、その後家を建てて定住しました。これから高久地区筒地に新しい橋が架かることもあり旧黒磯とのアクセスも良くなることから家を建てられる土地の分譲や紹介など、また、働き手である单身の方が住めるアパートなどがあれば若い人の定住人口も増えるのではないかと思います。

(町長) 町としても、筒地地区に新しい橋が架かることにより、黒磯市街地へのアクセスも向上することから、単身者や新婚・子育て世帯向けの賃貸住宅の建設を計画しているところです。また、その他の地区の住宅施策についても、今後検討していきたいと考えております。

6 空き家、危険性がある建造物について (ふるさと定住課)

(質問者) ①住民高齢化により施設に入所などして、長く空き家になっている建物の対応はどうしていますか。親族などとの連絡方法はどのようにしていますか。

②移転して、空き家になっている建物の対応はどうしていますか。

③災害などにより、住めなくなって放置してある建物の対応はどうしていますか。

④崩壊しそうな建物の対応はどうしていますか。

(町長) 昨年度より空き家相談窓口を設置したところ、将来は空き家になるといった親族からの相談も増えているところです。相談があった内容は台帳を整備し、実際に空き家になった場合の手続き・利活用方法等をご案内しております。

また、空き家になっている建物は、空き家バンクへの登録を促し、地域への移住・定住につなげるなど、空き家利活用を促進しております。

放置してある建物や崩壊しそうな建物については、倒壊等著しく保安上危険となるおそれのある建物と判断できる場合は、特定空家等に認定し、所有者に対し解体に要する費用の一部を交付し、解体を促進いたしております。

<p>(質問者) 今年の4月から遺産相続に対する登記が義務化されました。今後は、空き家でも所有者がはっきりしてくると思います。十分活用し、町もしっかりと法律を守って取り組んでいただきたいです。</p>	
<p>(町長) 空き家の管理は全国的にも大きな課題となっており、積極的に取り組むものと考えております。また、引き続き国への要望活動を行ってまいります。</p>	
<p>7 町営の日帰り温泉の建設について (観光商工課)</p>	
<p>(質問者) 町営の温泉施設を町内に建設していただき、高齢者は格安の料金で利用できるように切望いたします。</p>	
<p>(町長) 現在、お湯の温度の低下等により休止中となっている「那須いこいの家」については、休止状態が続いておりご迷惑をお掛けしております。町としても、那須の魅力の一つである温泉に観光客の方だけでなく、町民の皆さんにも入っていただきたいと考えておりますので、今後、その方法について検討してまいります。</p>	
<p>8 みんなの店の存続と在り方について (観光商工課)</p>	
<p>(質問者) いずれなくなる町の運営ではないことを耳にしています。私は別荘から17年、移住して2年になり、よく利用させて頂いています。歩いて50分。ひと休み、買い物、お喋りして帰ります。車で、自転車、手押し車で、杖をついてなど、自ら出むき選んでお金を払って買い物し食事をする。一人暮らしの方など、次の食事のために総菜をもとめたりしています。駅やタクシー、バスの利用者の待ち時間の場所でもあります。スタッフの声掛けや気配りも素晴らしいです。町の運営でなくとも町ぐるみで活性化を図って駅前(町の顔)を明るく安全な場所に。何より若い方を誘致するとともに高年齢になっても出かける所があることも大切かと思えます。(新鮮な地元の産物、手作りの品があり交流出来る)</p>	
<p>(町長) 黒田原駅前みんなの店は、黒田原駅前通りの活性化を図るため、空き店舗を利用したモデル店舗として、町が旧セブンイレブン店舗を賃借し、平成21年から那須未来株式会社への業務委託により運営を行っております。生産者や来店者も定着し、黒田原地域の交流の場としての役割も果たしており、特に高齢者の集いの場となっておりますことは、福祉行政の観点からも評価すべきところと認識しております。</p> <p>黒田原駅前通りの活性化を図るために、引き続き、収益の向上や店舗運営の改善を図りながら、黒田原駅前みんなの店の継続と在り方について検討してまいります。</p>	
<p>9 学校部活動の地域移行について (生涯学習課)</p>	
<p>(質問者) 学校部活動が地域と連携し、地域としての活動へと移行していく中で、町として何ができるのか、何をすべきなのかを今後、多くの人の意見をまとめ、提案したいと考えています。</p>	

(町長) 町が部活動地域移行を実施する目的は、少子化の中でも将来にわたり、児童生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会の確保を目指して行うものです。

併せて、国や県においては、部活動の取り扱いについて、学校教育活動から生涯学習活動への移行が示されていることから、町としては、学校における部活動制度廃止に伴う児童生徒の活動の場を、地域クラブの形態により確保することを考えております。

具体的には、学校部活動制度の廃止に伴う受け皿として、活動主体の地域クラブ化を行うものです。地域クラブ化にあたっては、自主運営による組織を考えております。

(質問者) 部活動の地域移行が進み、スクールバスが廃止となった場合の不安があります。那須町では保護者の送迎の負担が多く、内容によっては、那須塩原市の学校に通わせようかという声もあります。町の取り組みへの意気込みを聞かせていただきたい。

(町長) 部活動の地域移行は協議会で検討しているところです。スクールバスの廃止は町として決定している訳でございませぬが、那須塩原市に転校するようかとの意見が出ているとのことですので、どのようにすれば那須町に残っていただけるか。それだけでなく、那須町を選んでいただく方法を模索してまいります。

(教育長) 部活動の地域移行については、現在協議会を立ち上げて検討しております。現時点での平日の活動場所は、各学校を考えております。種目によっては、スポーツセンターや文化センターになるかと思えます。今後も、皆さんからご意見をいただきながら検討してまいります。

10 部活動地域移行検討よりジュニア音楽部の設立について (生涯学習課)

(質問者) 部活動が学校で行うのが難しくなり吹奏楽部、合唱部など減少の方向になると聞いています。私たちは青少年育成のためにスポーツだけではなく音楽による人格の形成、社会へのコミュニケーション、情操教育、などを積極的に行いたいと思っております。

プロの音楽家による指導を受けれる事が大きな魅力です。そのためにはまず場所の確保(廃校になった那須小学校の使用要請)、生徒達の送迎、他にも町との協力があれば実現できると信じています。

(町長) 学校部活動においては、少子化により活動が困難になっていくものと推測していることから、町では、学校部活動の地域クラブ化に取り組んでおります。活動の場を地域クラブへ変更することで、これからの児童生徒の文化・スポーツ活動は「地域が担う」「地域で育てる」意識を持っていただき、地域で取り組む活動にしていきたいと考えております。

活動の拠点については、基本的には所属校の施設利用を考えておりますが、状況によっては、活動場所の検討が必要と考えております。

また、地域クラブについては、自主運営により行っていただくもので、現在のところ、児童生徒の移動についてもクラブ内または各ご家庭で行っていただくことを基本として考えております。

1 1 音楽鑑賞教室の開催について

(生涯学習課)

(質問者) 学校ごとに体育館、音楽室で出張による小さな編成によるコンサート、または文化センターでのオーケストラのコンサートの開催が可能です。

毎年演劇、落語、民謡など文化活動を聞きますがその中に音楽がないのが寂しく思います。プロの演奏者による上質な音楽は御用邸もありピアノ、ビオラ、チェロを楽しむ天皇御一家と結びつけて考えることも出来、音楽の街那須となれば観光需要も増えると見込んでおります。音楽を幼少時より身近に感じる事ができる生楽器による音楽鑑賞教室は不可欠なものと思っております。

(町長) 文化芸術の促進は真に心豊かな生活を実現するとともに、活力の源となるものと捉え、幅広い体験や質の高い文化芸術に触れる機会が重要と考えます。

特に小さい頃の体験は大人になっても記憶に残り、財産となるものと考えております。併せて、那須町に文化芸術を根付かせたいとの思いから小学生および中学生を対象とした鑑賞事業を実施しているところです。

今後も、ご要望の音楽など含め、幅広く様々な文化芸術体験を提供できるよう、町民の皆さまのご意見を聞きながら、より満足度の高い事業を実施していきたいと考えております。

1 2 水遊びができる公園について

(生涯学習課)

(質問者) 5月の連休になかがわ水遊園の水遊びができる広場に孫たちを連れていって来ました。年々暑い日が多くなるなか、暑い日でも外遊びができる公園が那須町にもあったら良いと思います。町民も観光で訪れた子どもたちも遊べる公園を作って欲しいです。

(町長) 那珂川沿いにある、なかがわ水遊園の「水の広場」は、衛生上の観点から井戸水および水道水を利用し運営していると伺っております。現在のところ、町内の中心的公園である余笹川ふれあい公園には、水遊びができる施設はございませんが、暑い夏においても涼やかに利用できる公園があることは、子育てしやすい環境の一つと考えますので、なかがわ水遊園を参考に、余笹川ふれあい公園内での整備の可能性等について調査研究をしてまいりたいと考えております。

1 3 「生きがいつくり」ができる町について

(生涯学習課)

(質問者) 多様性が真剣に話題になり、都会の壮年・青年世代の生き方・世界観にも変化が起こりつつあります。那須町には豊かな自然があり、温泉がありますが、今ひとつ積極的な魅力がありません。この魅力の一つに「生きがいつくりができる町」を提案したい。那須シ

ニアカレッジを 18 年間経験したその実感からの提案です。目の前の利益誘導策ではありませんが、将来に向けて、この町のイメージアップになることと思います。

(町長) 町では、町民の皆さんが、さまざまな体験や学びからご自身のスキルを磨き、参加者同士の交流により同じ趣味等を持たれた方々が集い、生き生きと活動ができるよう各種講座の開催に取り組んでまいりました。

しかしながら、生きがいは人それぞれであり、多種多様でありますので、どの様な取り組みが生きがいになるのか、ご意見をいただきながら、今後も、町民の皆さんへ生きがいづくりの場を提供できるよう努めてまいります。

(質問者) シニアカレッジの会員は、多い時で 420 名いました。一時減少しましたが、コロナ以後は、回復傾向にあります。県のシルバー大学校と全く性質が異なり、町民が運営していて、主にりぼーる・たなかで活動しています。宗教・政治・営利目的を禁じていますが、それ以外は誰でも講座を開くことができます。講座の良し悪しは受講生が決めます。これを町の皆さんにもわかっていただき、関東地区、全国へアピールしたいと思っています。町民が学校を運営するのは稀な例で、報酬はもらっていません。生きがいを感じています。成功している例は全国で数箇所あり、表彰されている団体もありますが、なかなか続かない。我々は 19 年続いており、来年度は 20 周年を迎えます。

我々の活動をわかっていただいて、話題にあげていただきたい。那須シニアカレッジが頑張っているということをご皆さんに認識していただきたい。シルバー大学校は 2 年だが、こちらは期限がありません。誰でも講師にも、生徒にもなれる組織です。生きがいを見出すのには最適かと思っています。

(町長) 日頃から那須シニアカレッジの皆さんにはお世話になっております。行政の方でもしっかり PR させていただきたいと思っております。一生現役。それが生きがい、楽しみになっていただければ。那須町から、那須シニアカレッジがあると先進事例として発信できるよう、ご指導いただきながら進めていければと思います。

(質問者) 都会から那須町を選んで入ってきていただきたいと思っております。

1 4 道標の身分保証について

(生涯学習課)

(質問者) 芦野、伊王野、三ヶ村合併に伴い、小島にあった三ヶ村道標は黒田原に移動。歴史的価値は高く、教育財産としても大切です。経緯は不明ですが、個人所有とのことで昨年に家屋解体し若干見られるようになりましたが、地主と話し合い町としての保存、管理を切望します。

(町長) 昨年度に土地所有者へ話を伺ったところ「代々、受け継いでいるものであり、今の場所から動かす考えはありません。」との回答でありました。現在の場所に移動した詳しい

経緯等を示す書類は残っておらず、町としても、どのような経緯で今の場所に設置されたのかは不明でございます。保存、管理に際して、町としてどのように関わられるかを含めて、土地所有者の理解が必要不可欠であると思っておりますので、道標の重要性や土地所有者を説得できるだけの根拠を引き続き調査するとともに所有者との話し合いも進めていきたいと考えております。

1 5 県道 211 号線の安全確保について

(建設課)

(質問者) 高久駅前から柏台団地間の道中が狭く、急カーブでガードレールはこすられて曲がり危険性が大きいです。道中拡張や別ルート化を含めて対応を急いでほしいです。センターラインの入った県道 211 号線を切望します。

(町長) ご要望のあった区間につきましては、道路管理者である栃木県(大田原土木事務所)がバイパス工事を計画し、事業説明会を終えているところですが、JRとの協議に時間を要していることから、事業が思うように進んでいないところであると栃木県大田原土木事務所から伺っております。事業の早期完成に向けて、引き続き栃木県と連携を図り進めてまいりたいと考えております。

1 6 黒田原を通過する県道豊原高久線の交通安全確保について

(総務課)

(質問者) 安全安心なまちづくりに交通安全は欠かせませんが、黒田原を通る県道豊原高久線は、道路改修による拡張後、交通事故の発生が顕著となっています。多くの車両が制限速度を超えて通行しています。特に朝の6時7時台には、他県ナンバーの車両が先を急ぐ様子が見られ、危険を感じています。この案件については、町長との懇談会においても、数年にわたり再三問題提起をしているところですが、いまだに抜本的な対策が実施されていません。重大な事故が発生する前に、関連機関と連携し、効果的な対策を実施することを要望します。

(町長) 制限速度違反など、道路交通法を所管するのは警察署となり、町には道路交通法に関する権限がないことから直接的な対応を行うことはできませんが、那須塩原警察署との協議は行っておりますので、今後も警察と連携しながら交通安全の啓発活動を通して交通ルールの遵守と運転者のマナー向上を図ってまいります。

1 7 旧母子センター前十字路について

(建設課)

(質問者) 交差点を止まらずに、通過する車が多い為、停止線前にスピードバンプ等を設置してほしい。また、ファミリーマートからセブンイレブン間の裏道に道幅の狭い所があるが、町としては、どの様に考えていますか。

(町長) 旧母子センター前十字路につきまして、ご意見にあるとおり一時停止をせず通過する車両があることを現地にて確認しております。昨今、交差点付近の住宅が解体され、視距

が確保できるようになったことから、これによる道路利用者の動向について注視するとともに、警察と連携しながら交通安全啓発活動を通して、交通ルールの遵守とマナーの向上を図りながら必要な対策を検討してまいりたいと考えております。

また、町道幸町3・立岩線の一部で道路幅員が狭い区間について、両側に住宅等の建築物があり、限りある財源の中で全面的な拡幅は困難な状況であることから、路面標示等による道路利用者への注意喚起などを検討してまいりたいと考えております。

18 生活しやすい町としてのPRについて

(企画政策課)

(質問者) 那須塩原市や大田原市、他自治体と比べ水道、ガス、固定資産税、子育て保育料など比較してどうなのでしょう。町は安いと聞いた事があります。生活しやすい町としてもっとPRできないかと考えています。レジャー施設については、既に実施されていますよね。

(町長) 水道料金や保育料等は、利用条件により料金が異なりますので、一概に近隣の市と比べ安いとはいえませんが、今年度のまちづくりの取り組みとしては、観光振興による地域経済の活性化や若者層の移住・定住の促進、子育て・教育環境の充実に特に力を入れており、活気と笑顔があふれるまちとして町内外へのPRに努めていきます。

19 イベントについて

(観光商工課)

(質問者) 小さな店のイベント情報なども知らせて欲しいです。

(町長) 町では、観光協会、商工会、森林組合、農業協同組合で構成する経済四団体と連携し、那須ブランド品のPRや那須九尾まつりなどの各種イベントに取り組んでいるところです。今後もこのような取り組みを通して関係団体と情報を共有し、協力しながら町内の企業をはじめとする商工業者、観光事業者、農林業者と連携し、町のさまざまな魅力を発信してまいります。

なお、今後は町ホームページのイベントカレンダーへの投稿など、情報発信に向けて検討してまいります。

20 住みよいまちづくりについて

(企画政策課)

(質問者) 住みよいまちづくりをしてほしい。

(町長) 住みよいまちづくり施策としては、第7次那須町振興計画に基づき、新婚・子育て世帯向け住宅の整備や空き家バンク制度を運用した空き家の有効活用、安全で安定した水道水の供給、道路や橋りょうの維持補修等インフラの整備、不妊治療にかかる費用や子育て支援、その他ICT教育の推進や学校給食への支援を行っております。今後もより住みやすいまちづくりを実施するために各種施策を推進してまいります。

2 1 北那須エリアでの自治体同士の連携について	(企画政策課)
<p>(質問者) 栃木県北エリアにおいて、那須町は那須塩原市、大田原市と行政、警察、消防分野のみならず、医療、農業、商業、交通、金融等、各方面、各分野にて連携していますが、今後の連携の進化、深化について、どのような方針をもって臨む予定でしょうか。また、近年、西郷村や白河市など県境を挟んで福島県側自治体との連携も始まっているようですが、連携の現状についてお知らせいただきたいです。</p>	
<p>(町長) 県北エリアや福島県側で隣接する自治体との連携については「八溝山周辺地域定住自立圏の形成に関する協定」を締結し、2市6町（大田原市、那須塩原市、那須町、那珂川町、棚倉町、矢祭町、埜町、大子町）において、構成市町が有している豊かな地域資源を活用して連携・協力し、一体的に定住促進と地域活性化を図る取組みを実施しております。その中でも、各市町において共通した課題である、人口減少問題は喫緊の課題として捉えていますので、関係人口・交流人口の促進を図り、定住人口の増加を目指していきたいと考えております。</p> <p>また、観光面では、那須町、白河市、西郷村、天栄村、下郷町、会津美里町の6市町村で組織する那須白河会津観光推進協議会において、観光振興の促進を図っております。</p>	
2 2 マウントジーンズ跡地について	(企画政策課・観光商工課)
<p>(質問者) マウントジーンズは冬山のスキーだけでなく夏山の登山客も多く利用しておりました。茶臼岳、朝日岳、三本木槍岳からマウントジーンズまでなど縦走登山の人気コースです。シロヤシオ群生地には遊歩道も整備され、花の時期には、かれんな白いツツジの花の群生が見られ、多くのツアー客も来ておりました。</p> <p>峠の茶屋駐車場はシーズンは満車状態、道路も混雑しています。マウントジーンズには広い駐車場、道路も比較的スムーズに動けます。夏山だけでも利用できるよう保全対策（ヤシオツツジ群生地に遊歩道を設置）を考えていただきたいと思います。</p>	
<p>(町長) 夏や紅葉期のハイシーズンにおいては、多くの登山者が峠の茶屋駐車場や大丸駐車場を利用することで早朝から満車となり、それを原因とする道路渋滞がありご不便をおかけしております。マウントジーンズ側の登山ルートは、茶臼岳や姥が平などのように気軽に登山を楽しめるルートではないため、北温泉を起点とする登山ルートへの誘導方法等について、関係機関とともに調査・研究をしております。</p> <p>また、ヤシオツツジ群生地を巡る遊歩道については、マウントジーンズ那須が整備したものであり、マウントジーンズ那須の廃止に当たり、その関連施設と共に遊歩道の撤去が進められているところです。</p> <p>従来からの登山道である北温泉側からのルートについては、これまでどおり利用することができます。</p>	

物法」に基づき、良好な景観の形成、風致の維持、公衆に対する危害の防止を図るため「那須町屋外広告物条例」を制定し、必要な規制を行っています。町内一律に客寄せ看板の撤去や色を指定することまでは考えておりませんが、今後も、屋外広告物の表示や設置における指導やパトロールを行い、良好な景観の形成に努めて参ります。

3つ目は、農業・畜産・林業はいまのままでよいのか。産業の再開発についてです。本町は全国でも有数の生乳生産地でありますので、観光業と連携し、生乳や乳製品の情報発信の充実を図ってまいります。また、町独自の農作物の生産振興としまして、園芸作物 推進支援事業補助金の交付など、生産農家の育成支援を行っています。

4つ目は、他の町とは違った生き方、特徴ある町にできないか。道の駅の改革についてです。友愛の森については、現在、再整備を行っているところであり、その中で課題となっている駐車スペースの拡充、魅力発信のための施設の建設などを行っているところです。整備後の道の駅の運営、イベントの開催等については、他の道の駅も参考にしながら、那須町独自の魅力を発信できる施設となるよう努力してまいりますし、御用邸のある町として、特色ある、輝ける町にしたいと考えております。

(司会) こちらの「意見・提案」では、その他にもたくさんのアイデアを頂いております。全てはご紹介、ご回答できませんが、これからのまちづくりに生かしていきたいと思っております。

2 4 町長の政治倫理観を知りたい

(総務課)

(質問者) 町長の政治倫理感を知りたい。

(町長) 私の政治倫理観は、町長として那須町の描く明るい未来に向け、日々、職と向き合い行動する姿勢で示すものと考えています。

その姿勢とは、現在の社会情勢は。町民が求めているものは。それらをいち早く察知し政策に取り込み、スピード感をもって業務遂行することであります。私は日頃から職員に対し、町民全員が家族であると伝えています。そして、常に初心と感謝の気持ちを忘れないことです。

その政策を進めるうえで一つのスローガンを掲(かか)げました。「わかりやすい行政」「スリムな行政」「やさしさある行政」熱意と行動力で取り組みます。これは職員も毎朝実施している朝礼の場で復唱しています。何よりも町民に理解しやすい行政を進めていくことが重要であります。

もうひとつ、私が政治倫理観を語るうえで大切にしていることは、「目配り」「気配り」「心配り」「時間配り」です。この四つの配りを実践することで、人は笑顔に変わるはずで。そして、何よりも風通しの良い環境が生まれることでしょう。人づくり町づくりの土台はここにあると考えています。

「夢ある未来へのまちづくり」の実現に向け、日々、襟を正し、自らを律しながら情熱と責任感をもって取り組んでまいります。

25 シェルターへの補助について	(ふるさと定住課)
<p>(質問者) 東日本大震災以降どこでも地震が起きています。昭和56年以前の建物は100万円の耐震工事の補助金が出ていますが、あとは自己負担なので、なかなか進まないのが現実だと感じています。例えば、建物の一角に4畳半とか6畳のシェルターを作ってはどうか。シェルターは耐火構造、耐震構造の建物だと地震、火事、台風などの天災時にも安心だと思います。シェルターに対する支援ができないのでしょうか。県や国会議員とも新たに検討いただきたいです。</p>	
<p>(町長) 災害はいつどこでおこるか分からない状態にきています。それに対して、補助金、シェルターはどうですかというご意見かと思えます。色々な方の声を聞きながら、しっかりと検討してまいります。町の担当課と進められるようであれば、これからも深掘りし、アイデアを聞かせていただければと思います。</p>	
<p>(質問者) 私1人では難しいので、みんなの力を借りていきたいです。</p>	
26 災害時避難場所の変更について	(総務課)
<p>(質問者) 災害時避難場所として旧朝日小学校を指定しています。体育館を利用する想定だと思いますが、車を置く場所もありません。旧逃室小学校跡地の集会施設はどうかと思うのですが、いかがかでしょうか。</p>	
<p>(町長) 駐車場のスペースは確かに少ないと思います。旧逃室小学校跡地の集会施設を避難所として使用できるように前向きに検討させていただきます。</p>	
27 黒田原駅前アーケードの設置、友愛の森について	(観光商工課)
<p>(質問者) 黒田原駅前の活性化として、お年寄りが傘をささずに買い物できるようなアーケードを作って、駅前通りだけでも賑わいのある町になって欲しいと夢を持っています。例えば東京の阿佐ヶ谷などの下町風情には、一角ですがアーケードがあります。七夕でしたら、そこから吊るすこともできます。また、財政のことは全く考えていないと思われるのですが、黒田原駅のそばに温泉を掘ってほしいです。那須塩原市の湯っ歩の里のようなスケールまでとは言いませんので、まずは足湯から作っていただくと、他県、他市町からの人の出入りが増えると思います。町営の日帰り温泉があれば素晴らしいと思いますが、体力作り、まちづくりのためにも駅のそばに魅力的な施設を作っていただきたいです。</p> <p>友愛の森に新たにできたマルシェは、とても広いです。レストランは今も営業していますが、来年移転すると聞きました。レストラン自体が人が集う多目的な交流センターのような多目的施設になったら素晴らしいと思います。音楽だけでなく、多才なアーティストが那須にはいるので、そのまま残していただいて、簡単なステージがあるとか、可動式な社交ダンスができるような多目的施設として、ぜひ残していただきたい。皆さんの交流の場になると</p>	

思います。

また、今日、悩みを聞きました。犬の散歩をする愛犬家が芝生や遊歩道などに多く集まるそうです。犬のフンを持って帰る方、そうでない方がいて困っているとの事でした。広い敷地の一角にドックランなどがあれば、そこで犬の散歩をしてもらえると思います。また、欲を言うとキッズルームなど屋内で遊べるような施設、大田原市のトコトコのようなものがあれば、天候に左右されずに集客が期待できるかと思います。

(町長) もっと人が増えていくように一步一步努力してまいります。那須町の中心地は黒田原です。観光では那須高原地域、歴史と文化では伊王野地域があります。中心地の黒田原を盛り上げるよう、しっかりと検討させていただきます。アーケードの町を作ると即決できる段階ではございませんが、考えていきたいと思ひますし、私も町の中心地に温泉があつたらいいなとは思っております。那須町は栃木県で一番多くの温泉があり、温泉組合との話し合いも必要ですが、可能性があると思ひますので、実現して達成できるように調査してまいります。

また、友愛の森レストラン跡の再利用についても既に色々と意見をいただいております。新しいレストランは作りますが、そのレストラン跡の利用については多くの皆さんの意見を聞き、地元の皆さんは勿論、那須を訪れる方にも利用したいと思える施設になるようにしたいと思っております。散歩の問題についても検討いたします。他にも意見があれば担当課にお願いいたします。

28 まちづくり懇談会について

(企画政策課)

(質問者) 懇談会は、同じ境遇の人が集って意見を交換すると思ひますが、今回は、事前に議題を出して町長が回答しているかと思ひます。町長が全て説明するのではなく、町の幹部もいるので、もう少し担当の案件に対してそれぞれに振ってはどうかと思ひます。ある程度振り分けて一歩二歩踏み込んだ具体的な話しを聞きたいです。これだと発表会のように感じてしまいます。懇談会は決定する場ではないので、決定しなくてももう少し踏み込んだ意見を聞かせてください。

また、懇談会をQRコードで申し込みましたが、登録後の参加についてのお知らせが郵送で届きました。それではお金がかかりますよね。メールでやったのだからメールで返した方がよいと思ひます。何のためのQRコードなのでしょう。広報紙にもQRコードがあつて、いつでもどこでも見られるようになると、広報紙の削減にもなるし、ごみの削減、経費削減につながると思ひます。アナログとデジタルの堺とは思ひますが、もっと上手に進めてほしいと思ひます。住みよい町であれば出ていく人はいないです。工場など、働く場所は周囲にあるので、ベッドタウンではないですが、よければ残ってくれると思ひます。そのようなまちづくりをして欲しいです。

(町長) 懇談会での回答につきまして、事前質問が少ない場合は、事前質問以外にいろいろ

な意見がいただけます。まず、私が答えますが、深掘りする場合は担当の幹部職員（課）が答えております。また、課長、局長が来ているのに一つも答えていない事については、反省点としてもっと多くの皆さんに意見をもらうような場を作っていきたいと考えております。多くの皆さんに来ていただいておりますが、話したい事があるけれど時間がなく質問出来なかった方には、各担当課において答えてさせていただきたいと思っております。

また、連絡がメールと郵送が重複した事については無駄な経費だと思っておりますので、徹底して見直していきたいと思っております。削減につながるかと思っておりますので、これからの時代にそう行政を運営していきたいと存じます。